

たすけあい名古屋

通信第139号

20年を振り返って

たすけあい名古屋20周年に際し、この20年の間にどのようなことがあったのだろうと、過去の出来事、流行語などを振り返る機会がありました。本格的な高齢社会の幕開けを迎え、様々な言葉が流行った時期でした。

「老人力」「後期高齢者」「無縁社会」「孤独死」「終活」等々高齢社会を予感するような言葉が数多く生まれてきています。ただ、どちらかというとも明るいイメージの言葉が少ないことが残念です。

- 「老人力」：定義はないようですが、解釈の仕方でものようにもなります。齢を重ねるとそれまでになかった力が新たに備わるとの解釈もあるそうです。いわく物忘れ力、物忘れとは脳に新たな記憶の場所を空けるために不要な記憶を整理する(忘れる)とのこと。であれば、新たに「老人力」を獲得する事もまんざらではないでしょう。
- 「後期高齢者」：介護保険法の施行により65歳以上の方が高齢者として定義されました。75歳以上の方が「後期高齢者」と呼ばれ一般的に「前期高齢者(65~74才)」よりも病気にかかる率、入院する率が増えます。2025年には団塊世代が後期高齢者の仲間入りし激増することから「2025年問題」への対処が大きな問題となっています。
- 「無縁社会」「孤独死」：NHKの特集番組でよく知られるようになりました。1960年代後半からの高度成長時代に、若年層が大都市の大規模団地へ流入し、核家族化が急速に進展、さらに少子・高齢化と社会構造が大きく変化しました。子世代が独立し、残された親世代が、高齢化とともに外出機会の減少、引き籠もり、近所の仲の良い知人との付き合いの減少、近隣社会との繋がりが希薄になり孤立に拍車が掛ってしまう事が問題です。
- 「終活」：亡くなる時に備えて元気なうちに事前の準備をしておくこと。相続財産の整理、社会的な関係の整理、葬儀等、考えておかなければならないことが多くあります。周囲の人に迷惑をかけることの無いように準備しておくことが必要です。

今年は「忬度」が選ばれるのでしょうか。「もり・かけ」問題のように忬度だけで物事が進んで行ってしまうのは考え物です。ただ、衆議院解散・総選挙、北朝鮮の不穏な動きなど、今年の流行語の行方はとんと見当が付きません。

様々な流行語、振り返ってみるとこの20年間の時代の変化を反映していることがよく判ります。

たすけあい名古屋が設立して20年、地域の将来を考え作られた団体が、今まさにその将来に直面する時を迎えました。自分達が自分達で出来ることを、地域のお互いのことを思いやりながら取り組んで行かなければなりません。

(代表理事 西川 達夫)



宮治眞先生（名古屋市立大学客員教授・たすけあい名古屋名誉会員）に「20周年記念号」の講評を次のように頂きました。ありがとうございました。

たすけあい名古屋「20周年記念号」から

—過去・現在・未来—

宮治 眞

たすけあい名古屋より20周年記念号が届き、多くの賛辞を一気に拝読して僕の「もう20年 まだ20年」はピント外れで反省しきり。追憶を迎れば渡部たすけあい名古屋前代表理事から、当時広報担当はと。それが「もう20」の過去、「まだ20年」の未来だ。僕の題は二つを繋ぐ「現在」のつもり、少し責任を感じての雑感。多数の方々が夫々に相應しい言葉で過去・現在・未来を語っていることに感服。琴線に触れた名言を拾って敬意を表そう。

西川達夫代表理事の「今日から活動を開始します」は20周年記念号に的確な現在から未来への素敵なキャッチコピーだ。渡部勝前代表「ほどこしではない おしきせではない 金もうけではない」の至言が現在を支える。山崎カズミ NPO 法人いきいきネットゆりの会理事長「ボランティアはやり過ぎてはいけない」成程。水谷桂たすけあい名古屋名誉会員「介護保険も本格的に機能するようになりヘルパー養成のための教室を開き、私も2級の資格」自らの実践が抜群の過去。

設立前夜の名称秘話一つ。渡部前代表の「この指とまれ」の呼びかけに応じた十数人でたすけあい「名古屋」・「鳴子」かの議論。多数決は僅差で「たすけあい名古屋」。僕も「名古屋」、理由は「鳴子のこけし」が有名で、埋没する個人的な危惧だった。現在、各部門と各々に「司」を配した点に鑑みると、「たすけあい名古屋」の何々部門として名を成すだろうと夢は改めて未来へ飛翔する。

障がい者総合支援だより



この通信が皆様のお手元に届くころ、「かるむ」では賑やかな声があふれている事と思います。10月1日より、休止していた「児童デイかるむ」「生活介護かるむ」を再開しました。そして、「のん・たん」とのご利用者とスタッフ全員が「かるむ」に移りました。事前に移転先の事業所で行った保護者面談では、周辺の環境の良さや施設が広く新しいなどハード面に対する好意的なご意見に加え、数多くの方からスタッフや支援内容の継承などソフト面を評価するコメントをいただくことができ肩をなで下ろしています。

今年度は、事業所の縮小再編といった荒波の中をスタートしましたが、ようやく屈ぎを迎えられそうです。どんな状況にあっても「利用者さん第一」の考えは揺るぎないものです。それさえスタッフ全員で共有できていれば、進路を間違える事はないと思います。

これからも、どうか温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（かるむ 管理者 村田 裕子）

デイサービス鳴子だより



暑さも少しずつ和らぎ、過ごしやすい季節となって来ました。



デイサービス鳴子では、今月は「歌いながらトレーニング」として、「月」「村祭り」などを歌いながら体を動かしました。歌いながら体を動かすことによって、呼吸や発声機能の改善や、下肢を動かすことで歩行機能の改善が期待できます。みなさん、すぐに動きを覚えられて、元気な歌声がフロアいっぱいになり、楽しく体を動かすことができました。「愛染かつら」の歌では、映画に出ていた俳優さんのお話をしたりして、ワイワイと話が弾み、楽しいひと時となりました。

（デイサービス鳴子 片桐 彰子）



「ケアマネが聞きたいこと」

研修日 8月17日

講師 服部佐和子ケアマネジャー（けあプラン鳴子）

介護保険を利用される時には、ケアマネがケアプランを作成します。そのケアプランはご利用者の目標を達成するための生活の改善と予防の計画書で、ケアマネの生命ともいえるものです。その目標を「サービス担当者会議」でサービス従事者が共有し、それに沿って援助者が支援を行います。援助者は支援終了後、必ず記録を書きます。その記録の書き方は「SOAP」を参考にしてください。「SOAP」とは、記録の手法の一つです。

「SOAP」	S (subject)	主観	ご利用者の話、様子、行動
	O (object)	客観	援助者が見聞きしたこと
	A (assessment)	評価	援助者の分析、判断
	P (plan)	計画	問題解決のための計画、アドバイス

ご利用者がどの様に過ごされているか、努力されているか、前向きになっておられるか等、普段のご利用者の生活がケアマネにとって知りたいことです。この「SOAP」を念頭に置いてサービス従事者（ヘルパーなど）が支援することによって、ケアマネに情報が的確に伝わり、結果的にご利用者への支援の質が上がってくることになります。

人に情報を伝えることは簡単なようで、実はとても難しいことです。この「SOAP」をちょっと頭の片隅に置いておくだけで、より正確な伝達ができます。仕事ばかりでなく普段の生活にも「SOAP」を取り入れたいものです。（介護みどり 長田 加奈子）

高齢期に注意が必要な脱水症・熱中症の予防と対策

研修日 9月21日

講師 (株)明治中部支社 管理栄養士 高橋優花先生

脱水症とは、体液が失われた状態で、その原因は、発熱、発汗、下痢、嘔吐、多尿、水分の摂取不足があります。脱水により体重が減少するので体重の変化は脱水の重症度の指標となります。また、筋肉が一番水分を溜めることができるので、筋肉量が減少する高齢者は体液量が少なく脱水症になりやすくなります。

発症のピークは、夏と冬の年2回。実は冬に風邪やインフルエンザ、ノロウイルスなどからの発熱、下痢・嘔吐でも起こりやすいので注意が必要です。

簡単に脱水症を見つけるためには、脇の下が湿っているかどうか触ってみる、皮膚をつまんですぐに戻るかどうかをみる、爪を押してみてもピンク色に戻る時間を見る等の方法があります。

熱中症とは、脱水症に体温上昇によって起こる臓器障害が加わり発症します。高齢者は体温調節機能の低下に伴い、自覚症状や耐性の低下もあるので室内でも起こりやすくなります。熱中症の予防には、体調を整えることはもちろん、こまめな水分とナトリウムの補給が必要です。喉が渇かなくても1日に1.2ℓ程度の水分を食事以外で摂る様にしたいです。経口補水液を利用するのも良い方法で、その場合は一気に飲むのではなく、500mℓをゆっくりと1時間かけて飲むようなペースが、一番、身体に吸収されやすいスピードになります。

日頃、テレビ等で良く聞く脱水症と熱中症ですが、意外と、きちんとした知識を持っていないものだと研修を受けて思いました。今回この研修で勉強できてとても有意義でした。（介護みどり 川口 典子）



研修風景 本部にて

鳴子のおひさまだより

7周年目を迎える「鳴子のおひさま」



この10月で開設以来7周年を迎えることができました。これまで、ご利用者とそのご家族をはじめ地域の皆様に支えていただきまして本当にありがとうございました。

「小規模多機能型居宅介護施設」という範疇はその利用方法がわかりにくいかと思いますが、皆様よくご存じの<デイサービス><ショートステイ>と<訪問介護>の3つの機能が一か所で利用できる施設です。その特徴は、少人数でいつものお仲間・いつもの建物・いつもの職員がいるという「馴染みの関係」です。利用に当たってはストレスも少なく、急なお泊りでもベッドが空いていれば宿泊可能ですのでお問合せ下さい。

10月からは看護師も2名体制となり、より安心な介護を重ねてゆきたいと思います。
(鳴子のおひさま 管理者 坂倉 直人)

田口さん・永原さん 優良運転者表彰

「たすけあい名古屋」の送迎ドライバーとして活動されている田口隆男氏と永原武司氏が愛知県緑警察署長・交通安全協会緑支部長・緑安全運転管理協議会長の連盟で優良運転者として9月28日に表彰されました。

ご両人は、障がい者、高齢者の施設の送迎で活躍し5年を経過しました。常に安全・安心を第一に日々心がけ無事故、無違反を継続中です。利用者からも慕われ模範運転者として今回の表彰に十分値すると思います。これからも安全運転を継続されることを期待します。

(移動サービス 管理者 高橋 増夫)



田口さん

永原さん

これからも安全運転に努めます

「年忘れ 健康 ふれあい祭り」のお知らせ

昨年まで10月に開催していましたが「たすけあい名古屋 なるこ ふれあい祭り」と12月開催の「もちつき大会」ですが、今年は「年忘れ 健康 ふれあいまつり」として12月16日(土)に鳴子団地80号棟の中庭で開催致します。「健康」をテーマとして、たすけあい名古屋主催で、各市大医学部・看護部・薬学部、名古屋学院大リハビリ学部の学生さん、中央発條の労働組合の皆さんも加わり地域の方々と交流したいと思います。

健康に関する催し物、バザー、おいしい物コーナー、子供さん対象の輪投げゲームなどを予定しています。次号11月号以降に詳細、チラシなどでご案内する予定です。

お願い バザー協賛品募集します。新品・未使用でバザーに寄付して頂ける品がありましたら、11月20日(月)までにご協力お願い致します。収益はたすけあい名古屋の福祉活動に使わせて頂きます。

お問合せ ☎899-0833 (羽根・黒木まで)



ホームページをご覧ください

たすけあい名古屋 検索



特定非営利活動法人(認定NPO法人) たすけあい名古屋

代表理事 西川 達夫

〒458-0041 名古屋市緑区鳴子町四丁目13番地 愛知県住宅供給公社鳴子第1住宅

TEL 052-899-0833 FAX 052-899-0800

Eメールアドレス: info@tasukeainagoya.com